

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503643		
法人名	特定非営利活動法人 エルダーサポート協会		
事業所名	グループホームホーム愛の郷駅家		
所在地	広島県福山市駅家町法成寺2730番地		
自己評価作成日	令和4年11月14日	評価結果市町村受理日	令和5年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	令和5年2月7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

都心から離れた静かなところに施設があります。騒音もなく、聞こえてくるのは、近くにある小学校の音、子供たちの声です。一生懸命に練習をしている楽器の音や、みんなに伝えるために声を出している放送など、様々な音が優しく聞こえてきます。畑を耕している音や、草を燃やしている匂いやなど懐かしく思えることがあります。そんな環境の中で、みんなは、暮らしています。一日一日が、楽しく、ゆっくりと時間が過ぎていくことを、願いながら、大切な時間を過ごして行ける場所だと思います。みんなとともに時間をふれあい続けていける努力をいたしていきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は宅地化が進む中、田畑が目の前に広がり季節の移り変わりを感じることができる。近くの小学校からチャイムや音楽・子どもたちの声が聞こえ、懐かしい思い出につながることもある。職員が優しい声掛けをし、表情や仕草をよく見て支援していることで、利用者が穏やかに暮らしている。事業所内で開催された夏祭りではスイカ割り、屋台祭りでかき氷・綿菓子・たこ焼きなどを提供して利用者の楽しみに繋げている。リビングや居室は整理・整頓・清掃が行き届いており、空気清浄機が設置され、清潔に管理されている。コロナ感染時には保健所と連携すると共に、職員の団結力が発揮され、徹底した感染対策により限局的に抑えることが出来た。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼にて、みんなで思いを込め、声に出しています。	毎朝の朝礼で理念を唱和している。管理者とリーダー・ケアマネージャーは日頃から話し合い、職員の育成に努めている。職員が笑顔で優しく接することで、利用者が穏やかに生活できるよう実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	朝の挨拶から始まり、回覧板、道掃除、清掃をおこなっている。	町内会に加入しており、回覧板で地域の状況を把握している。地域住民と挨拶を交わし、職員が清掃活動に参加するなど地域と交流している。町内会長や民生委員は2年交代であるが、運営推進会議開催を通して顔見知りになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	掲示板にて、施設での出来事や、伝えていかなければいけない事を伝えていけるように努力しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	何をしていくべきかを共有する場を大切にしてい	法人の方針で開催を中止している。2か月ごとにメンバーへ中止のお知らせと事業所の状況報告書を届けている。意見があれば検討してサービス向上に活かす方針である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当の方と、情報交換や、施設での状況などの報告・意見交換を行っている。	ケアマネージャーが介護保険の申請や生活保護対象者の手続きなど行い、市の担当者と話をしている。困りごとがあれば電話で相談もしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全を考え、夜間のみ施錠を行っている。日中に関しては、インターホン対応をしている。	法人で行われる身体拘束・虐待防止委員会に参加し、事業所内で2か月に1回学習会をしている。管理者からグレーな事例やスピーチロックについてなど気づきがあれば、声掛けを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束・虐待のチェックリストを使用するなど、職員教育につなげていくことを期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束委員を中心に勉強会や・意見を出し合える場を設け、声を出している。			

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人や制度について、ミーティングなどに勉強会を開き、学習している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に対して文章を理解していただけるよう疑問があれば、随時疑問を解決できるように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様に対して、毎月のお手紙にて施設内の出来事・状態報告をし、要望を聞き入れ検討をし、出来る事に努力を行う。	家族には毎月便りと写真・担当職員が書いたメッセージを送って利用者の状況を報告している。面会時や電話で要望を聞き、衣服の調整などに反映させている。利用者の思いをくみ取って甘味を提供するなどしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、日々の出来事の合間に、意見があれば聞き入れ、話し合いの場にて検討を行っている。	ミーティング時に、意見や提案を検討し対応している。管理者から日々職員に声掛けをし、ケアに関することや勤務希望など相談があり対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見があれば、検討をし問題を解決していく努力を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・発表と意見が出来る事を目標に、必ず言葉に出して言える状態を提供していくように努力している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員同士の情報交換により、内容の理解と向上に向けていけるよう努力する。			

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様から、本人の生活状態・環境などの情報を聞き入れ、どのような暮らしをしていたか把握する、知ること、信頼を取ることが出来ていき、コミュニケーションが取れる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が何を望んでいるのか、どうしてほしいかを聞き、どのように施設で暮らしているかを、伝える努力をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設での状況を伝え、家族や本人に理解をしていただく努力を行う。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室担当が、住み心地の良い空間を提供し、かつ、声掛けを行ない寄り添っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とのコミュニケーション作りに努めていき、家族との絆を取る努力に務めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が持っている情報や、本人が何げない言葉を、しっかりと聞き取りを行っている。	コロナの状況を見ながら、玄関先で家族の面会に対応している。届いた年賀状を読み聞かせたり、電話の取次ぎをするなど馴染みの人との関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本を読んだり、歌を唄ったりと、みんながかかわりが持てるように努力している。			

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が出来るように努める努力を怠らない			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握するために、聞き取りに力を貸し、記録に残す		利用者に話しかけ、その表情や仕草を読み取っている。いつもは反応が薄い人が「おはよう」と言ったことなど、記録に残して職員が共有し、家族にも伝えている。困難な人は家族等に確認し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との繋がりを大切に、本人の状況を伝えながら、問題が起これば、報告・連絡・相談を行なう。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを記録にとり、変化にいち早く築き出来るよう、現状の把握に努める。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録・申し送り・家族へのお手紙などにより現状を把握できるように努め、介護計画への作成作りに反映できるように努める。		ケアマネージャーが担当職員から情報を得て、話し合いをして介護計画を作成している。モニタリングと計画見直しは3~6か月で行い、状況変化時には話し合いをして対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア担当を中心に、情報収集に努め、築きや、介護計画の見直しに活かせるよう努力をしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が、求めている事への把握を行い、支援できるようミーティング等を行い支援できるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	会話の中で昔の暮らしについて、話が弾むことがあれば記録に残し、昔の風景を覚えておいてもらえるように支援を続けていく。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問日には、健康管理のバイタルをファクスにて報告、体調変化があれば、様子観察を行い、結果を、Drに報告、指示を仰いでいる	入居時にかかりつけ医について説明し、希望の医療機関にかかっている。訪問診療は2週間に1回あり、受診の場合は家族か職員が同行している。夜間・緊急時は電話で連絡し指示を得て対応している。歯科は必要時に連絡して、利用者の状況に即した対応をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の記録をもとに、看護師に相談し担当Drに報告、指示を受け対応し経過記録の維持を行い適切な対応ができるように支援をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者との情報交換を行い、コミュニケーション作りに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で出来る事、家族が出来る事を相談と共に情報交換をおこない支援に努める努力をおこなう。	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について確認している。状態変化時には医師からの説明と共に家族と職員が情報交換を行い、家族の宿泊など、意向に沿えるよう支援している。職員は管理者と共に協力して支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会に参加をすると共に、自主勉強をも行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に2回の、避難訓練・火災訓練・地震時の対策訓練を行っている。	年2回夜間想定で、避難訓練・火災訓練・地震時の訓練を利用者と共に行っている。車いすで避難しやすいように通路の板を準備している。隣接の小規模多機能施設に避難している。備蓄は食材が2～3日分あり、法人内で支援体制ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	精神状態などに変化があれば、申し送りなどにて伝え、状態が変化すれば、相談し解決に向けていくための努力を行なう。		所内で接遇研修を行い、排泄や入浴などの介助時に羞恥心やプライバシー保護に配慮した対応を心掛けている。相手の反応を見ながらきちんと説明し、自己決定できるよう支援している。できることへの喜びや感謝の言葉を伝えるなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る事への声掛け、出来たことへの喜びと感謝を伝えていき、自己決定が出来るよう支援をしていける努力をしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日は何をする、今何がしたいですかと、尋ねることで、一日の過ごし方を見出す努力をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を提供し、服を着る段階から声掛けを行ない鏡・櫛などを置き、おしゃれが出来るよう支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	{食事が始まるよ}の声掛けから、口腔体操で準備をおこない、食事メニューを伝えていくことで楽しんでいただけるよう支援をしている。		畑で収穫した野菜も利用して、職員が毎食手作り対応している。誕生日には赤飯とケーキ、おせちやひな祭りのバラ寿司などの行事食が喜ばれる。夏祭りや屋台祭りのイベントではスイカ割りやかき氷・綿菓子・たこ焼きなど楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録や量の制限がある方への声掛け対応お粥・ミキサー食減塩食などの対応をおこなっています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け対応・歯磨き後のサポート・歯磨きティッシュ対応をおこなっています。			

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録による状況の把握・声掛け対応を行っている。清潔面に対して陰部洗浄や清拭を行っている		記録により時間を見計らい、タイミングを見て、言葉や表情・しぐさなどの行動パターンを把握してトイレの誘導をしている。利用者の能力に応じて、立ち上がりの声掛けや、一部介助・見守りの支援をしている。毎日、ラジオ体操・柔軟体操などを行い、身体機能低下を防いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を参考にして、色・形・状態を把握し、水分量や食事量を元々の字運動を取り入れ、個々にあった予防にとり組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けをしながら、入浴日を決めることもある、また、清拭・足浴・手浴などの対応を行う事もある。		週2回を目標にその人のタイミングで入浴している。機械浴で浴槽につかる人もいる。シャワー浴の時には足浴をしながら保温に努めている。全身観察の機会とし、入浴後の保湿ケアにも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度を確認しながら、枕元や足元に注意をおこない、体転など状況に応じて対応している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援や、異常があれば薬剤師の情報提供・Drの指示をもらい対応にあたっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いの声掛けや、職員と共に塗り絵や貼りえ、カラオケを楽しんでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様に状態を伝えていき、協力が出来るように支援をしている。		桜の季節には庭に出て花見をし、小学校から音楽や子どもたちの声が聞こえるのを楽しんでいる。職員が作る菜園で収穫をしている。受診時に車窓から景色を眺めたり、窓越しで日光浴をするなど、利用者の状態に合わせて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを金庫に保管、小遣い帳に記載し家族・本人には、内容説明をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により手紙や電話が出来るように対応している。状況や状態により対応の見直しを行う事もある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	机や、テレビの配置、同席の方の距離など、ゆっくりと過ごしていただけるように努力している。	リビングは整理・整頓され、空気清浄機も設置して清潔に心地よい空間となっている。職員と利用者が制作した壁画を飾り、季節感を感じるようにしている。みんなで体操を行い、TVの前・テーブル周囲や窓際など好みの場所でしたいことをして過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	声掛け居室への誘導、場所移動、席の配置変更ともなう移動と居場所の工夫を対応している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が動きやすく、居心地が良く過ごせるよう配慮・工夫をしている。	本人が使いやすい収納家具・TVなどを持ち込み、家族の写真や作品・塗り絵など飾っている。家族が持ち込んだ脳トレ(間違い探し)の本なども置いている。本人が居心地よく、安全に移動できるように配置など工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の着替えや私物の整理など使用する物に対して声掛けを行ない、危なくないように、不安にならないように本人の声を聴いていくよう心がけている。			

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束・虐待を気付かないまま身に付け、対応していることが多く見られる為、気づけば注意する。	職員教育に繋げる努力を行う。振り返り、どうだったか考える	気付くことへの声掛けへの努力を実行 虐待のチェックリストを使用し、考え方を確認 対応がどうかと内容を知る	3ヶ月
2	2	地域との交流の充実	事業所の内容を知ってもらう 協力の充実	掲示板の作成 内容の充実	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(別紙4(3))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他( )